

救援物資 について調べる

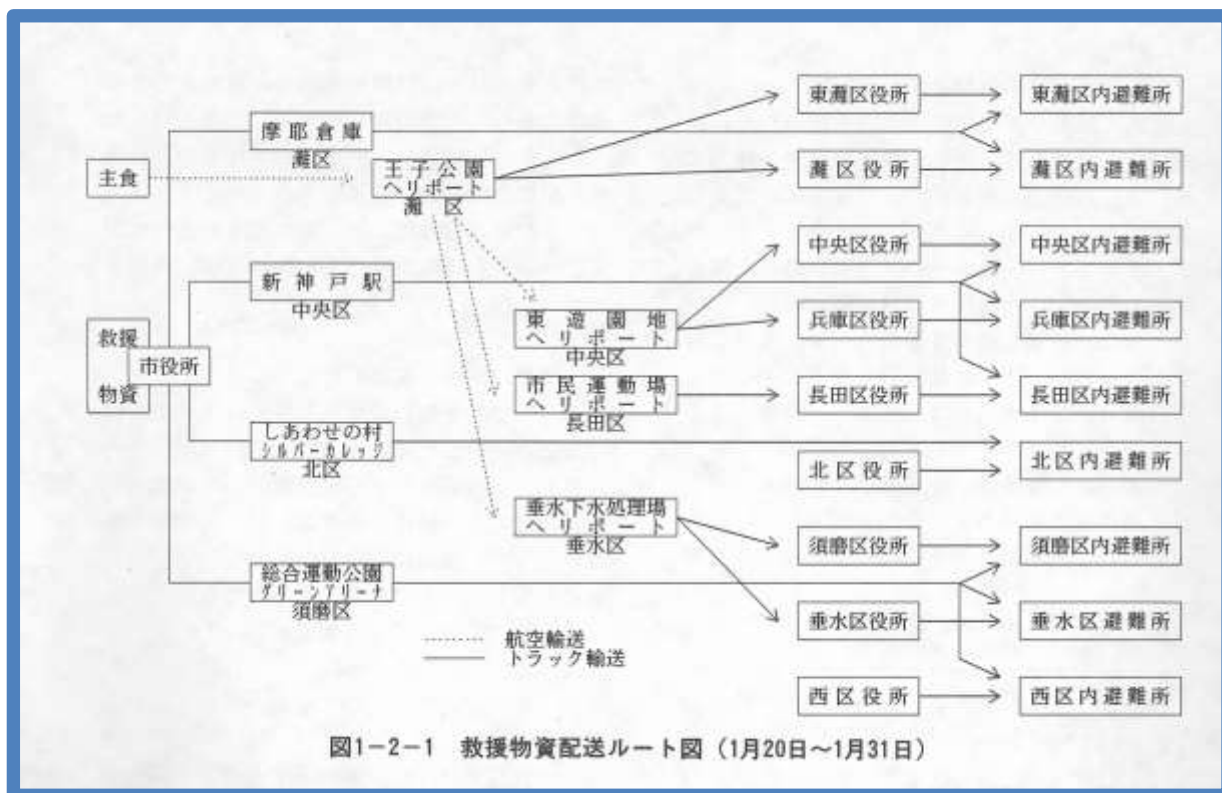
平成 7 年（1995）1 月 17 日午前 5 時 46 分 阪神・淡路大震災 発生

◆救援物資受付・配布

震災当初、救援物資は神戸市役所を目指して送られていました。市役所 1 号館と 3 号館間の道路及び歩道、3 号館 1 階駐車場が物資集積場として使用されていました。

しかし物資の保管場所はすぐに不足し、必ずしも配送時に効率的でないことなどから、1 月 20 日以降は市内 4 カ所（摩耶埠頭、新神戸倉庫、シルバーカレッジ、グリーンアリーナ）に配送拠点を設け、ポートアイランドと六甲アイランドにバックアップのための物資倉庫（一時的な備蓄倉庫）を設けました。およそ一か月後、避難所の減少と道路事情の若干の改善に伴い、配送拠点の統廃合を行い、摩耶埠頭（4 月 17 日以降、住吉浜倉庫）、シルバーカレッジの 2 カ所に集約されました。

避難所解消の 8 月 20 日まで、全市へ向け救援物資の配送が行われました。



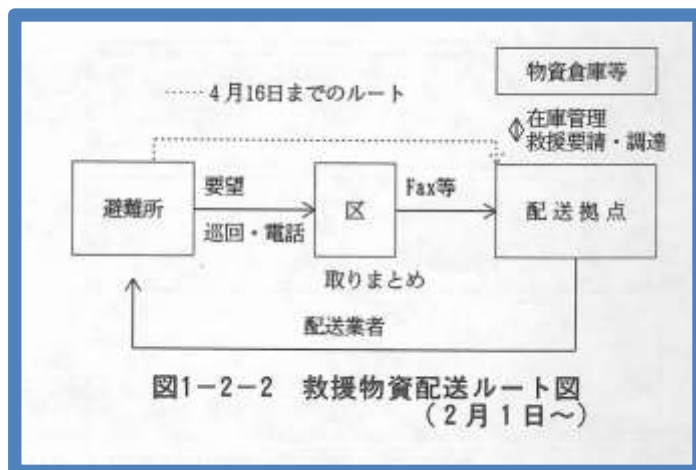
『平成 7 年兵庫県南部地震神戸市災害対策本部 民生部の記録』神戸市民生局 1996 より

○救援物資は、民生局受付分で約 2,600 件（1995 年 7 月末）でした。生活必要物資がそのほとんどでした。直接避難所や災害対策本部に届けられた物資、市民やボランティアの手で届けられた物資も多く、正確な救援物資の総量を把握するのは困難です。

◆情報提供、物資の配送・受入体制

○震災当日午後、救援物資を受け入れる旨の記者発表を行いました。救援物資の受付専用電話を設置し24時間体制で市職員が対応。必要な物資・搬入先・輸送経路などの情報を物資提供者に伝えました。

『平成7年兵庫県南部地震
神戸市災害対策本部民生部の記録』より



◆被災者を勇気づけた救援物資。そしてボランティアの活躍

○多くの物資が避難所に届き、被災者に喜ばれ復旧の大きな足がかりになりました。

○被災地の災害対策本部宛のゆうパックは、2カ月間、郵政省により無料取扱に。神戸の小包の区分け業務が神戸中央郵便局から大阪小包郵便局へ移管されたことで、神戸中央郵便局は被災地への配達業務に力を注ぎました。またできるだけ早く被災地に届けるため、初めての特別措置として、神戸市対策本部あての小包を神戸市に代わって郵便局が開披して内容を分類、市の指定する集積所へ配達しました。

○物資の搬入・仕分け・配布に、多くのボランティアの協力を得ました。43万個に上ったゆうパックの仕分けには、延べ2万9千人のボランティアの助けを借りました。

◆避難所のニーズとのギャップ

○マスコミ等を通じて必要とする物資の呼びかけを行いましたが、実際の物資の到着までに時間的なズレがあり、必要な時点と到着時点のニーズの差が問題でした。特に古着は大量に残りました。

◆教訓

○必要なものは時間とともに変化する。被災自治体がニーズを的確に把握しタイムリーに広報。

○あれこれ詰め込むよりも、同じ物を一つの箱に。現地の仕分け作業を軽減。

○時間が経過したら、義援金での支援も視野に。

【参考図書】

- 『阪神・淡路大震災神戸復興誌』神戸市震災復興本部総括局復興推進部企画課 2000 震 3693A
- 『平成7年兵庫県南部地震神戸市災害対策本部 民生部の記録』神戸市民生局 1996 震 318A
- 『震災直後』須磨区役所 1999 区役所職員の記録です。 震 318A
- 『コープこうべ活動の記録』1996 神戸市との「緊急物資協定」による物資提供 震 335A
- 『12歳からの被災者学：阪神・淡路大震災に学ぶ78の知恵』日本放送出版協会 2005 震 3693A
- 『物資が来たそう!!考えたそう!!：阪神・淡路大震災から学ぶ救援物資の送り方、受け方、配り方』震災がつなぐ全国ネットワーク 1998 震 3693A
- 『赤いポスト白書：阪神・淡路大震災』白川書院新社 1996 郵便局の活動記録です。 震 693A